



寒くなる季節になると、インフルエンザの流行が気になりますね。予防方法は手洗い、うがい、手指消毒、マスクの着用のほか、Wellnessコラムでも話題のワクチン接種による予防も一つの方法です。しかし、いくら予防対策をしたとしても感染することはあります。

感染すると発熱の症状が現れます。発熱となると、昨今の状況から「新型コロナウイルス感染症かも…」と心配されると思います。医師でも一目でインフルエンザによるものか、新型コロナウイルスによるものか、検査をしてみなければわかりません。また、ど

ちらに感染しているかで医療行為は変わります。京丹波町病院ではこのような場合を想定して、一度の検査でどちらに感染しているかが判断できるように、同時キットによる検査が行えます。

当院で使用している検査キットは、基本的に約10分間で判定できますので、発熱で気になったときには当院にお電話いただき、発熱外来の受診をお勧めします。

発熱外来の予約は、平日の午前8時30分から行っていますが、当日受付人数の上限を設定していますので、受付時にご確認ください。



11月14日は世界糖尿病デー 糖尿病のことを 一緒に考えてみませんか

国保京丹波町病院 水曜日
和知診療所 火・木曜日の総合内科 担当
加藤 ちさと 医師



日本では「糖尿病である」あるいは「糖尿病の可能性がある」人の数が総人口の約6分の1を占め、糖尿病は非常に一般的な病気です。一方で、糖尿病には今なお誤解や偏見が多いという側面もあります。そしてその誤解や偏見のために病気を受け入れられず治療の機会を逃している人や、就労や結婚などにおいて社会的不利益を受けている人がいます。

糖尿病治療において重要なことは早期発見・早期診断、適切な治療の継続であり、病気そのものの進行や合併症・併存症を予防し、精神的・社会的な側面も含め、健康な人と変わらない人生を送ることが治療における最大の目標です。

まずは正しく知ろうとすることが大切です。ネットで調べる、糖尿病を有する人の話を聞く、セミナーに行くなど、入口は何でも構いません。もちろん検診や定期受診の際に我々病院スタッフに聞いていただくのも一手です。糖尿病の方もそうでない方も、この機会に糖尿病に少しでも興味を持っていただけると幸いです。

京丹波町にお住いの皆さんが健やかに幸せに「健幸」で暮らせるように……。国保京丹波町病院では、病気になる前の「予防医療」を大切に病気を患ってからもその人なりに幸せに暮らせるよう「地域包括ケアシステム」を充実し町民一人ひとりの健幸Wellness—ウェルネス—を目指しています。

院長先生の Wellnessコラム

かき た ひで はる
垣田 秀治院長



インフルエンザワクチン接種が始まっていますが、今年は同じ時期にオミクロン対応のコロナワクチン接種も始まりました。では、コロナワクチンとインフルエンザワクチンはどれくらい接種間隔を空けたらよいのでしょうか？

政府からのガイドラインをみると、コロナワクチンとインフルエンザ以外のワクチンは2週間以上の間をあけることとなっています。インフルエンザワクチンに限っては、同時接種も可能であるし、接種間隔も2週間以内でも大丈夫とのこと。インフルエンザの流行時期や補助対象期間、そしてオミクロン対応

ワクチン接種の時期が重なったことも関係しているのでしょうか。

現時点において京丹波町病院では、インフルエンザワクチンとオミクロン対応ワクチンの同時接種は予定しておりません。また、私は個人的に質問されたときには、両方接種するのが良いですが、可能なら2～3週間は間を空けたらいかがでしょうかと答えています。

接種間隔は考えなくても大丈夫とのことですが、体調も考えながらそれぞれの判断でうまくワクチン接種を受けるのがよいのかもしれないね。